

## 全国、岡山県学力学習状況調査の概要

今年4月に中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」と、中学校1、2年生を対象に行われた「岡山県学力・学習状況調査」の結果が7月下旬に公表されました。英田中学校ではこの結果を受けて様々な角度から分析をし、今後の学校の活動に活かすために話し合いを続けています。

今回は、「全国調査(3年生対象)」を中心に、今の時点での分析結果を報告させていただきます。はじめに、「全国学力・学習状況調査」の目的を確認します。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
【文部科学省 HP より】

つまり、単に学力を他者と比較して見比べるものではなく、学力をつけるために必要な要素を割り出す調査です。従って、調査前の取組よりも調査後の取組の方が重視されます。たとえば、どんな問題が得意でどんな問題が苦手なのかを見つけることで学習内容の絞り込みをしたり、生活習慣と学習の定着度を比較してどうすればより学習が定着するのかを分析したりするということです。もちろん授業改善を実施したり、教育内容を修正したりするための資料としても利用しています。

学校と家庭が同じ思いで生徒の成長をサポートするためにも今後、学校からいくつかの提案をさせていただきます。今回の分析結果を基に意見交換しましょう。

### ●学力について [3年生の全国学力・学習状況調査の結果]

- 国語では用語の意味理解など、基本問題が解けている生徒が多い一方、文章問題や記述の問題に苦手意識を持っているようです。
  - 数学においては、計算力が身につけている生徒が多く、正答率が高かったですが、文章問題を苦手としていて、正答率が低くなっています。
  - 英語においては、聞き取り問題や、単語の書き取り問題ができていて一方で、英語の文章を読み取った上で、文脈に合う内容の英作文ができていませんでした。
  - 全ての教科に共通する課題としては、無回答率の高さです。問題文が読み取れなかったり、問題文が読み取れても何を答えれば良いのかわからなかったりして、解答欄に何も書けない状況があったようです。特に後半の問題に多く表れていることから、前半の問題を回答するのに時間がかかり、後半の問題に時間をかけられていないのではないかと考えられます。
- 今後は、授業の振り返りや感想といった書くことに重点を置いて指導をします。

- 学習状況について(数値は全て「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」の合計)
- 学校での授業においては、「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問に「毎日使用した」と回答している生徒が52.4%(県平均26.2%)で、目標とするタブレットの利用促進が定着しつつあると感じています。(表①)ただ、タブレットを有効に活用することで達成できる『対話的な学び(77.5%)』や、『主体的な学び(69.9%)』で、昨年度よりも数値が下がっています。今後は、タブレットの活用、対話的な学び舎主体的な学びにつながるような工夫を進めていきます。

【表①】「学校で、授業中にICT機器をどのくらい使っていますか」：3年生

質問番号 (33)	質問事項										
	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
県校	52.4	42.9	4.8	0.0	0.0					0.0	0.0
岡山県(公立)	26.2	31.5	28.6	11.3	2.2					0.0	0.2
全国(公立)	28.1	33.0	26.4	9.5	2.7					0.0	0.1

1.ほぼ毎日    
  2.週3回以上    
  3.週1回以上    
  4.月1回以上    
  5.月1回来ず    
  その他    
  無回答

■地域とのつながりでは、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」生徒の割合は全体で51.0%と昨年度よりも減少しています。将来の英田地区を元気にする人材を育成したいと考えている英田中学校にとっては課題とすべき数値です。ただ、コロナ禍が明けて、地域の行事も徐々に増え始めている様子が見え始めるので、今後この数値は上昇すると考えられます。英田中学校としては、中学生が地域の行事に参加するだけでなく、地域の行事を企画・運営する人材となることを期待しています。

■「先生は自分の良いところを認めてくれる(自己有用感)」は全体で94.7%、となっています。日々の学校生活の中で、教師と生徒の良好な関係が築けていることを表していると感じています。「自分には良いところがある(自己肯定感)」は、全体で77.5%、で若干昨年度よりも数値が下がっています。生徒の様々な活動に、「ペップトーク」や「サンドイッチ話法」といった方法を用いて肯定的評価をするよう心がけて日々接するようにしています。今後もこの取組を継続していきます。

■平日の家庭学習時間(表②)では、岡山県の目標(平日家庭学習1時間以上を70%)を全学年で下回っています。6月の調査(i-check)では若干の改善はあったものの、目標値には達していません。

【表②】「平日の家庭学習時間」：3年生

質問番号 (17)	質問事項										
	学校の授業時間以外に、書読(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
県校	4.8	14.3	42.9	4.8	28.6	4.8				0.0	0.0
岡山県(公立)	6.9	18.9	35.0	20.6	11.8	6.5				0.0	0.2
全国(公立)	10.3	23.4	32.1	18.0	9.9	6.0				0.0	0.2

1.3時間以上    
  2.2時間以上、3時間より少ない    
  3.1時間以上、2時間より少ない    
  4.30分以上、1時間より少ない  
 5.30分より少ない    
 6.全くしない    
 その他    
 無回答

さらに、「自分で計画を立てて勉強していた」生徒の割合が、全体で61.6%で、経年変化を見ても数値が下がっています。我々授業者の課題の出し方を工夫する必要があることが考えられると同時に、各家庭での保護者の方のお声かけも重要と考えられます。家庭学習習慣の定着が急務と考えています。

■平日の「ゲーム時間」「ビデオ時間」(いわゆるメディア時間)が1時間以上の生徒(3年生は調査なしで1、2年生のみ)はどちらの時間も県平均を上回っています。一方、読書時間(平日1日30分以上37.7%)はどの学年も県平均を上回っています。限られた家庭での時間を有効利用するためにも、それぞれのご家庭で、時間の使い方についての話し合いを是非とも行ってください。

■岡山県が推進する「将来の夢や目標を持っている」【夢育】に関する結果は1年生は100%(県平均82.4%)、2年生は72.8%(同70.7%)、3年生では76.2%(同68.3%)となっています。学校では将来の夢を描くきっかけとなることを期待して総合的な学習の時間で「キャリア教育」を行っています。各家庭でも、将来のことについて話し合う時間の設定をお願いします。

▲以上のことを踏まえて、引き続き分析を進め、より良い学校教育を行いたいと考えています。家庭での時間の使い方や、メディアとの付き合い方など、家庭との連携を進める必要のある課題も見えてきています。将来の英田地域の発展を担う生徒たちが、より良い成長をするために一緒にがんばりましょう。